



12/10

「味噌ちゃんこ」の調理実習で身も心もぽっかぽか 農村生活アドバイザー研修会（総合文化会館）

農村で暮らす女性の社会参画や活動推進を目的とした朝日支部の農村生活アドバイザー研修会が行われ、師走の忙しい時期にもかかわらず、日ごろから地元で活躍しているアドバイザーが集まりました。

今年度の研修は、元力士であり、地域おこし協力隊として活躍中の臥牛山を講師として招き、調理実習として「味噌ちゃんこ」を作りました。地場産の野菜を持ち寄り、鶏ガラで出汁をとった味噌ベースのちゃんこ鍋は絶品。生姜も入って体も温まり、寒くなった季節にぴったりの研修会となりました。



▲手際良く作られるちゃんこ鍋

12/11

次年度の活動に向けて知恵を絞る 第4回神林地区関係人口創出事業実行委員会（神林地域）



▲ワークショップで出されたアイデアを発表

NPO法人スポーツクラブ希楽々理事長の渡邊優子氏をファシリテーターに迎え実行委員会を開き、来年度の活動内容を検討しました。

会はワークショップ形式で行われ、現在、神林地域で行われている複数の事業を線で結び、一つの大きな流れで実施できる事業内容や関わってくれる人、組織などについて話し合いました。

参加した委員からは、地元の農家が作った野菜や特産品を使った料理教室の開催や、高齢者の体力測定や競技大会を開くなど、さまざまな意見が出され、今回出された意見をもとに事業を絞り込み、人を呼び込み、繰り返し足を運んでくれる事業を決定します。

12/18

多分野で官学が連携した取り組みへ 新潟食料農業大学と包括連携に関する協定を締結（市役所）

市と新潟食料農業大学は、食や農業を通じた地域活性化や人材育成などに関し、相互に連携・協力した取り組みを行うこととして、包括連携協定を締結しました。

市の基幹産業である農林水産業については、担い手不足や高齢化、他産地との差別化など、さまざまな課題を抱えています。そうした中で、食料産業を総合的に学ぶことのできる新潟食料農業大学と連携しながら、課題解決や人材育成、新たなチャレンジなどに協力して取り組み、更なる地域の活性化を進めることとしています。

渡辺学長は「村上市は歴史風土、食文化など豊かな宝を持っている。山・川・海がそろった絶好のフィールドで、地域の発展に力を尽くしたい」と話しました。



▲協定書を交わした渡辺学長（右）と高橋市長

12/22

地域貢献活動で得た売り上げの一部を寄附 荒川中学校3年生が新型コロナウイルス対策応援基金を贈呈（市役所）



▲コロナ対策に役立ててほしいと寄附金を贈呈

荒川中学校3年生が「SDGs×地域貢献」活動として中学校の青雲祭や荒島ミニマルシェで販売（前号で紹介）を行った売上金の一部について、新型コロナウイルス感染症対策に役立ててほしいと市に寄附を行いました。

荒川中学校3年生の富樫^{とがしけん}さんは、「SDGsと地域活動を絡めた総合学習の一環として、地域の方々の協力をいただいて得られた資金を、新型コロナウイルス感染症対策として役立てていただければ嬉しい」と話し、市全体が活性化するためには、まず自分の足元を磨くことが重要だと学んだそうです。

またこの日、この学習を通じて作成した「地域のまちづくりプラン」の提案書を市長と市議会議長に手渡しました。